



|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 津曲敏郎教授 著述目録   |
| Citation         | 北方人文研究, 175-191   |
| Issue Date       | 2017-03-10  |
| Doc URL          | <a href="http://hdl.handle.net/2115/65827">http://hdl.handle.net/2115/65827</a> |
| Type             | bulletin (other)  |
| File Information | 10_13_mokuroku.pdf  |



[Instructions for use](#)

# 津曲敏郎教授 著述目録

2017 年 2 月現在

## 分類略号

- a 論文
- b 資料・研究ノート
- c 概説・辞典項目
- d 書評・文献紹介
- e 編集・監修・翻訳
- f 雑（序文・報告・発表要旨・随筆・その他）

## 電子媒体で公開されているもの

- HU 北海道大学学術成果コレクション HUSCAP  
<<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/index.jsp>>
  - DM 北海道民族学会ホームページ <<http://douminzoku.web.fc2.com>>
  - OU 小樽商科大学学術成果コレクション Barrel <<https://barrel.repo.nii.ac.jp>>
  - MP 国立民族学博物館学術情報リポジトリ <<https://minpaku.repo.nii.ac.jp>>
  - TF 東京外国語大学学術成果コレクション <<http://repository.tufs.ac.jp>>
- その他は直接 URL を記載

## 1977（昭和 52）年

- 001 b 「清語老乞大の研究：満州語研究のための一資料（1）」『札幌商科大学・札幌短期大学論集』（人文編）21: 211-248. 札幌商科大学・札幌短期大学学会, 1977 年 11 月. [『中国関係論説資料』第 19 号第 2 分冊上（論説資料保存会）に再録]

## 1978（昭和 53）年

- 002 b 「清語老乞大の研究：満州語研究のための一資料（2）」『札幌商科大学・札幌短期大学論集』（人文編）22: 161-193. 札幌商科大学・札幌短期大学学会, 1978 年 3 月. [『中国関係論説資料』第 20 号第 2 分冊下（論説資料保存会）に再録]

**1980（昭和55）年**

- 003 a 「Nišan Saman i Bithe における満州語詩の分析」『北海道大学文学部紀要』28 の 1: 63-104. 北海道大学文学部, 1980 年 1 月. [『中国関係論説資料』第 22 号第 2 分冊上 (論説資料保存会) に再録] HU
- 004 b 『ツングース・満州諸語比較辞典』のウイльта語単語の検討『ウイльта族言語文化調査研究報告 1』: 11-25. 北海道大学文学部言語学研究室, 1980 年 3 月.

**1981（昭和56）年**

- 005 a 「満州語の動詞語尾-me について」『北方文化研究』14: 149-172. 北海道大学文学部附属北方文化研究施設, 1981 年 [奥付では 1982 年 1 月].

**1982（昭和57）年**

- 006 f 「満州語文語における主語の維持と転換」『言語研究』81: 127-130. 日本言語学会, 1982 年 3 月. [日本言語学会第 83 回大会 (1981 年 10 月 北海道大学) 研究発表要旨]

**1983（昭和58）年**

- 007 b The interpretation of some words in the *Nišan Saman i Bithe*. In: Larry V. Clark (ed.) *Manchu Studies Newsletter* Issue III (1979-1980): 23-28. Berkeley, 1983.
- 008 c 「ツングース語」『月刊言語』12/11: 72-78. 東京: 大修館書店, 1983 年 10 月.
- 009 a 「ウイльта語のアクセント」『アジア・アフリカ文法研究』12: 75-84. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1983 年 [奥付では 1984 年 3 月].

**1984（昭和59）年**

- 010 f Accent in Uilta. In: T. Yamamoto (ed.) *Proceedings of the 31st International Congress of Human Sciences in Asia and North Africa* 1: 330-332. Tokyo: The Institute of Eastern Culture, 1984. [同会議 Section 6 (1983 年 9 月 東京) 研究発表要旨]

**1985（昭和60）年**

- 011 a 「ダグール語ハイラル方言の音韻体系」『北方文化研究』17: 227-240. 北海道大学文学部附属北方文化研究施設, 1985 年 7 月.
- 012 a Grammatical outline of Uilta. 『アジア・アフリカ文法研究』14: 1-15. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1985 年 [奥付では 1986 年 3 月].
- 013 a On B. Pilsudski's Orok vocabulary. *Proceedings of the International Symposium on B.Pilsudski's Phonographic Records and the Ainu Culture*: 184-189. Hokkaido University, 1985. [同シンポジウム (1985 年 9 月 北海道大学) 研究発表]

## 1987 (昭和 62) 年

- 014 a 「満州語のことばあそび」『民博通信』36: 33-40. 国立民族学博物館, 1987 年 3 月.
- 015 a 「B. ピウスツキのオロコ語文法記述について」『国立民族学博物館研究報告』別冊 5: 283-294. 国立民族学博物館, 1987 年 3 月. MP
- 016 b 「ダグール語ハイラル方言基礎語彙」『モンゴル研究』17: 2-38. 日本モンゴル学会, 1987 年 3 月.
- 017 a A Manchu wordplay in the *Nišan Saman-i Bithe*. 『干亭朴恩用教授回甲紀念論叢: 韓国語学 gwa Altai 語学』: 567-576. 河陽: 韓国暁星女子大学校出版部, 1987 年 6 月.

## 1988 (昭和 63) 年

- 018 b 『北川源太郎筆録「ウイльтаのことば」(2)』[池上二良と共訳解: イ, オ, カの条 (15-51, 87-115) を担当] (昭和 62 年度ウイльта民俗文化財緊急調査報告書 9) x+137pp. 北海道教育委員会/網走市北方民俗文化保存協会, 1988 年 3 月.
- 019 c 「ウイльта語」「ウデヘ語」「エウエン語」「エウエンキー語」「オルチャ語」「オロチ語」亀井・河野・千野編『言語学大辞典』1: 744-746, 834-836, 882-884, 884-886, 1095-1096, 1115-1116. 東京: 三省堂, 1988 年 3 月.
- 020 c 『カナで引く外国語辞典』[満州語の項目 (200 語) および解説 (230-231)]. 三省堂編修所編, 東京: 三省堂, 1988 年 3 月.
- 021 f 「エウエンキの文化: 日中共同学術調査から 6-9」『北海道新聞』: 1988 年 12 月 10, 12, 13, 14 日 (いずれも夕刊).
- 022 c 「通古斯語」『民族語文研究情報資料集』11: 42-48. 北京, 1988. [008 の中国語訳: 朝克訳]

## 1989 (平成元) 年

- 023 c 「シベ語」「女真語」「ソロン語」「ナーナイ語」亀井・河野・千野編『言語学大辞典』2: 188-191, 251-253, 522-523, 1457-1460. 東京: 三省堂, 1989 年 9 月.

## 1990 (平成 2) 年

- 024 b 『北川源太郎筆録「ウイльтаのことば」(3)』[池上二良と共訳解: ダ, ツ, チ, テ, デ, ト, ド, ト°, ナ, ニ, ヌ, ノ, ハ, バ, パの条 (95-155) とその訳注 (157) を担当] (平成元年度ウイльта民俗文化財緊急調査報告書 11) x+159pp. 北海道教育委員会/網走市北方民俗文化保存協会, 1990 年 3 月.
- 025 a 「満州語のことば遊び」江口一久編『ことば遊びの民族誌』: 97-105. 東京: 大修館書店, 1990 年 3 月. [014 の改訂]
- 026 a 「ツングース語の類型と相違」小谷凱宣編『北方諸文化に関する比較研究』: 137-147. 名古屋大学教養部, 1990 年 3 月.
- 027 f 「シンポジウム 北の言語: 類型と歴史 (第 2 回北方言語研究者協議会)」『通信』69:

56-58. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1990年7月.

### 1991 (平成3) 年

- 028 e 『ソロン語基本例文集』[朝克・風間伸次郎と共編, 津曲「序」1-7] vi+89pp. 北海道大学文学部, 1991年3月.
- 029 a Two nursery songs in Nanay. 『人文研究』81: 119-133. 小樽商科大学, 1991年3月. OU
- 030 b 『北川源太郎筆録「ウイльтаのことば」(4)』[池上二良と共訳解: ムーワの条(77-126)を担当](平成2年度ウイльта民俗文化財緊急調査報告書12) x+150pp. 北海道教育委員会/網走市北方民俗文化保存協会, 1991年3月.
- 031 f 「北東アジア・ツングース系諸族の言語文化の実地研究」[黒田信一郎・佐々木史郎と共著] 『学術月報』44/4: 14-19. 日本学術振興会, 1991年4月.
- 032 e 『ツングース言語文化論集1』[黒田信一郎と共編] vi+140pp. 北海道大学文学部, 1991年12月.
- 033 b An Ewenki index to the basic vocabulary of Khamnigan and Oluguya Ewenki. [032 所収: 9-21].

### 1992 (平成4) 年

- 034 c 「ネギダル語」亀井・河野・千野編『言語学大辞典』3: 19-21. 東京: 三省堂, 1992年1月.
- 035 c 「満州語」亀井・河野・千野編『言語学大辞典』4: 203-205. 東京: 三省堂, 1992年1月.
- 036 f 「アムール流域のツングース調査」『北海道民族学会通信』91/12: 7-8. 北海道民族学会, 1992年1月. [北海道民族学会1991年度第3回研究会(1991年12月小樽商科大学)研究発表要旨] DM
- 037 f 「ナーナイ」(世界の民—光と影: 国家と近代文明のはざま No.127-129) 『信濃毎日新聞』1992年3月30, 31日, 4月3日(いずれも夕刊).
- 038 a A basic vocabulary of Khamnigan and Oluguya Ewenki in northern Inner Mongolia. 『北方文化研究』21: 83-103, 北海道大学文学部附属北方文化研究施設, 1992年3月. [『中国関係論説資料』第34号第2分冊下(論説資料保存会)に再録]
- 039 a 「所有構造と譲渡可能性: ツングース語と近隣の言語」宮岡伯人編『北の言語: 類型と歴史』: 261-278, 東京: 三省堂, 1992年6月. [シンポジウム「北の言語: 類型と歴史」(第2回北方言語研究者協議会: 1990年5月北海道大学)の研究発表を補訂]
- 040 a 「通古ス語的類型与差異」『満語研究』1992年2期(総第15期): 43-50. ハルビン: 黒龍江省満語研究所, 1992年10月. [026の中国語訳: 肖可訳/朝克校]

### 1993 (平成5) 年

- 041 d 「伝承文化の厚みと誇り: 中村チヨ口述/村崎恭子編/ロバート・アウステリッツ採

- 録・著『ギリヤークの昔話』『北海道新聞』1993年2月7日。
- 042 f 「中口国境にヘジェ語を訪ねて」『言語センター広報 *Language Studies*』創刊号: 85-87. 小樽商科大学言語センター, 1993年3月. OU
- 043 f 「草原の文化とことば: モンゴル語の世界」『日本から見た外国・外国から見た日本: ことばと文化 (平成4年度小樽商科大学公開講座講義録)』: 83-88. 小樽商科大学, 1993年.
- 044 f 「北方の諸言語を読む」『徬書月刊』1993年4月号: 14-15. 東京: 弘隆社, 1993年3月.
- 045 e 『ナーナイの民族遊戯』(ツングース言語文化論集2) [ポンサ・キレ著/佐々木史郎・匹田剛と共編訳, 津曲「編訳者序文」1-4] viii+148pp. 小樽商科大学言語センター, 1993年3月.
- 046 a 「ヘジェン語の形態的特徴と満州語の影響」岡田宏明編『環極北文化の比較研究』: 81-92. 北海道大学文学部, 1993年3月.
- 047 e 『朝克著「エウンキ語基礎語彙集」索引』(ツングース言語文化論集3) x+88pp. 小樽商科大学言語センター, 1993年6月.
- 048 f 「ナーナイ」綾部恒雄監修/信濃毎日新聞社編『世界の民: 光と影』上: 86-94. 東京: 明石書店, 1993年7月. [037の再録]
- 049 a 「赫哲語の形態特性と満語の影響」『満語研究』1993年2期(総第17期): 48-55, ハルビン: 黒龍江省満語研究所, 1993年10月. [046の中国語訳: 趙阿平訳/朝克校]
- 050 f 「黒龍江省アルタイ学学会および満ツングース語学会成立大会」『通信』79: 54-56. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1993年11月.
- 051 f 「黒龍江省アルタイ学学会および満ツングース語学会成立大会に参加して」『満族史研究通信』3: 58-59. 東洋文庫清代史研究室満族史研究会, 1993年12月. [050の簡約版]

#### 1994 (平成6) 年

- 052 d 「ナーナイ関係邦語文献紹介」『言語センター広報 *Language Studies*』2: 97-100. 小樽商科大学言語センター, 1994年3月. OU
- 053 f 「北方狩猟民と星」『*Arctic Circle*: 北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌』11: 15-17. 網走: 北方文化振興協会, 1994年6月.
- 054 d 「〈書評〉満州語学から見た『満漢大辞典』」『満族史研究通信』4: 96-99. 東洋文庫清代史研究室満族史研究会, 1994年12月.
- 055 f 「満学家池上二良教授」閻崇年主編『満学研究』2: 385-390. 北京社会科学院満学研究所, 北京: 民族出版社, 1994年12月. [中国文: 宣徳五訳]

#### 1995 (平成7) 年

- 056 e 『鄂温克語三方言対照基礎語彙集』(ツングース言語文化論集6) [朝克採録・著/津曲編, 「編者序文」1-2] vi+160pp. 小樽商科大学言語センター, 1995年3月.
- 057 f 「世界の中の日本語」『言語センター広報 *Language Studies*』3: 71-76. 小樽商科大学言語センター, 1995年3月. [小樽商科大学公開講座(1994年10-11月)講義録] OU

- 058 a 「関于《尼山薩滿傳》中一段文詞的探析」『滿語研究』1995年1期(総第20期): 127-132. ハルビン: 黒龍江省満語研究所, 1995年6月. [017の中国語訳: 孫輝訳/ 蒋理校]
- 059 f 「ツングースのことばと文化」『東洋学報』77/12: 167-169. 東洋文庫, 1995年10月. [平成7年度春期東洋学講座「アルタイ諸語の世界」第426回講演(1995年5月東京)要旨]

### 1996(平成8)年

- 060 c 「アヴローリン」「クレイノーヴィチ」「ザハーロフ」「スコーリク」「スーニク」「ツィンツィウス」「ボゴラス」「ワシレーヴィチ」亀井・河野・千野編『言語学大辞典』6: 1437, 1454, 1458, 1466, 1466, 1474, 1503, 1523-1524. 東京: 三省堂, 1996年1月.
- 061 c 「満語」(リレー連載「中国の諸言語」3)『月刊しにか』7/6: 90-91. 東京: 大修館書店, 1996年6月.
- 062 b 「北方諸民族の口承文芸ジャンルと言語状況」第10回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編『北方文化と日本列島』: 85-89. 東京: クバプロ, 1996年8月. [同シンポジウム(1995年9月札幌)のコメントを補訂]
- 063 f 「黒龍江省第二回満ツングース言語・文化学術討論会」『通信』88: 50-51. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 1996年11月.
- 064 b 「中国・ロシアのツングース諸語」『言語研究』110: 177-191. 日本言語学会, 1996年12月. [日本言語学会第110回大会公開リレー講演(1995年6月早稲田大学)を補訂, 『中国関係論説資料』第41号(論説資料保存会)に再録]
- 065 b 「中国, 俄羅斯的通古斯諸語」『満語研究』1996年2期(総第23期): 13-20. ハルビン: 黒龍江省満語研究所, 1996年12月. [064の中国語訳: 趙阿平訳/ 朝克校]

### 1997(平成9)年

- 066 f 「オールドスで見たサソリ」『海外学術調査ニュースレター』34: 16-17. 国際学術研究総括班, 1997年1月.
- 067 a 「エウエンキー語オルグヤ方言についての覚え書き」『人文研究』93: 175-185. 小樽商科大学, 1997年3月. OU
- 068 b 「ウデヘ語文例」『言語センター広報 *Language Studies*』5: 83-91. 小樽商科大学言語センター, 1997年3月. OU
- 069 a Linguistic diversity and national borders of Tungusic. In: H. Shoji and J. Janhunen (eds.) *Northern Minority Languages: Problems of Survival* (Senri Ethnological Studies, no.44): 175-186. 国立民族学博物館, 1997年3月. MP
- 070 d 「〈新刊紹介〉池上二良編『ウイльта語辞典』」『北海道民族学会通信』96/12: 8. 北海道民族学会, 1997年3月. DM
- 071 e 『中国ツングース諸語対照基礎語彙集』(ツングース言語文化論集11)[朝克採録・著/ 津曲補訂・編, 「編者序文」1-2] vi+172pp. 小樽商科大学言語センター, 1997年8月.
- 072 d 「〈書評〉池上二良編『ウイльта語辞典』」『言語研究』112: 132-143. 日本言語学会,

1997年11月.

- 073 e 『環北太平洋の言語』3 [宮岡伯人と共編] iv+237pp. 京都大学大学院文学研究科, 1997年12月.
- 074 a 「ニブフ語, ウイルタ語, アイヌ語の名詞並列構造」 [073 所収: 131-142].
- 075 b 「近代化と言語変容: ツングースの事例から」 北海道立北方民族博物館編『開発と北方諸民族: 第11回北方民族文化シンポジウム報告』: 29-37. 網走: 北方文化振興協会, 1997年3月. [同シンポジウム(1996年10月網走)での発表を補訂]

### 1998 (平成10) 年

- 076 b 「ウデヘ語文例補遺」『言語センター広報 *Language Studies*』6: 107-110. 小樽商科大学言語センター, 1998年3月. OU

### 1999 (平成11) 年

- 077 c 「北アジア諸言語は今: 近代化と伝統のはざままで」(リレー連載「危機に瀕した言語を救え!」)『月刊言語』28/5: 106-113. 東京: 大修館書店, 1999年4月.
- 078 f 「危機に瀕した言語を追って」『北海道大学文学部案内 1999-2000』: 21. 北海道大学文学部, 1999年6月.

### 2000 (平成12) 年

- 079 e 『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究総括班ホームページの記録1』(渡辺己と共編, 「広報について」11, 21-22) ii+60pp. 京都: 環太平洋の言語総括班事務局, 2000年3月.
- 080 d 「〈書評〉池上二良著『満洲語研究』」『満族史研究通信』9: 130-134. 東洋文庫清代史研究室満族史研究会, 2000年4月.
- 081 a 「満洲語動詞語尾-ciの文末用法と-cinaについて」『*Altai Hakpo* (アルタイ学報)』10: 139-150. ソウル: 韓国アルタイ学会, 2000年6月.
- 082 c 「ウイルタ」綾部恒雄監修『世界民族事典』: 100. 東京: 弘文堂, 2000年7月.

### 2001 (平成13) 年

- 083 e 『ビキン川のほとりで: 沿海州ウデヘ人の少年時代』[アレクサンドル・カンチュガ著 / 津曲訳, 「はじめに: ビキンのほとりの出会い」i-v] xi+230pp. 札幌: 北海道大学図書刊行会, 2001年2月. [小澤俊夫監修『馬にされた大吉』(子どもに贈る昔ばなし15, 川崎: 小澤昔ばなし研究所, 2015年1月)に本書中から民話「ニンジンほりの若者の話」を再録: 238-243]
- 084 f 「フィールドへの見果てぬ夢」黒田信一郎著『ギリヤークの社会構造』: viii-ix, 東京: ビブリオ出版, 2001年2月.
- 085 a Preliminary remarks on an Udehe autobiographical text: with a sample of shamanistic



- episodes. In: O. Miyaoka and F. Endo (eds.) *Languages of the North Pacific Rim* 6 (ELPR: A2-001) : 1-7. 大阪学院大学情報学部, 2001年3月. TF
- 086 e 『環北太平洋の言語』7 [津曲編, 「北方諸言語」研究活動の記録] 1-10 TF] (ELPR: A2-002) iv+254pp. 大阪学院大学情報学部, 2001年3月. [『北方諸言語の音声データベース作成と言語変容に関する共同研究』(平成10年度～平成12年度科学研究費補助金基盤研究(B)(1)研究成果報告書)としても刊行]
- 087 a 「1人称複数代名詞の除外／包括性について：満洲語文語の用例をもとに」[086所収: 167-175]. TF
- 088 a The Manchu first person plural pronouns: with reference to some neighboring languages. 『*Altai Hakpo* (アルタイ学報)』11: 99-110. ソウル：韓国アルタイ学会, 2001年6月.
- 089 f 「ウデへの自分史との出会い」『*Arctic Circle* : 北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌』41: 12-14. 網走：北方文化振興協会, 2001年12月.
- 090 a 「関于満語第一人称複数代詞」『満語研究』2001年2期(総第33期): 21-27. ハルビン：黒龍江省満語研究所, 2001年12月. [087の中国語訳：朝克訳]

#### 2002 (平成14) 年

- 091 c 『満洲語入門20講』v+163pp. 東京：大学書林, 2002年1月.
- 092 a 「ウデへの精神文化断章：自伝テキストから」煎本孝編著『東北アジア諸民族の文化動態』39-65. 札幌：北海道大学図書刊行会, 2002年2月.
- 093 e 『環北太平洋の言語』8 [津曲編, ELPR: A2-012] iv+141pp. 大阪学院大学情報学部, 2002年3月.
- 094 a 「言語の危機と21世紀言語学の課題」[093所収: 131-141]. [日本言語学会第122回大会シンポジウム「言語学の諸相：世紀を越えて」(2001年6月一橋大学)を補訂] TF
- 095 e 「〈書評〉V. アヴローリン『満洲語文語文法』」[A. ベヴノフ, M. ハサノワ著／津曲訳]. 『満族史研究』1: 152-153. 満族史研究会, 2002年5月.
- 096 e 『ウデへ語自伝テキスト』[アレクサンドル・カンチュガ著／津曲編訳, 日本語対訳版] (ツングース言語文化論集17 / ELPR A2-019) xiv+378pp.+ 音声 CD1 枚付き. 大阪学院大学情報学部, 2002年8月. HU, TF

#### 2003 (平成15) 年

- 097 f Preface. In: M. Khasanova and A. Pevnov, *Mify i skazki negidal'cev (Myths and tales of the Negidals)* (ツングース言語文化論集21 / ELPR: A2-024) : i-ii. 大阪学院大学情報学部, 2003年2月. HU, TF
- 098 e *Bagdise Xokto Telunguni 1: Njoula ekini* (Avtobiograficheskaja Povest' 1: Detstvo; dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著／津曲編『ウデへ語自伝テキスト1：少年時代』ウデへ語・ロシア語版] (ツングース言語文化論集22) iv+176pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2003年2月.
- 099 f Preface. In: I. Nikolaeva, E. Perekhval'skaya and M. Tolskaya (eds.) *Udeghe texts* (ELPR:

- A2-025) : 1. 大阪学院大学情報学部, 2003 年 2 月. TF
- 100 f Preface. In: Yukari Nagayama, *Ocherki grammatiki aljutorskogo jazyka* (ELPR: A2-038) : iii, 露文 v-vi. 大阪学院大学情報学部, 2003 年 3 月. TF
- 101 e 『環北太平洋の言語』10 [津曲編, ELPR: A2-033] vi+251pp. 大阪学院大学情報学部, 2003 年 3 月.
- 102 a Dagur. In: J. Janhunen (ed.) *The Mongolic Languages*: 129-153. London/New York: Routledge, 2003.
- 103 a 「中国のツングース諸語」崎山理編『消滅の危機に瀕した言語の研究の現状と課題』(国立民族学博物館調査報告 39) : 213-222. 国立民族学博物館, 2003 年 6 月. MP
- 104 a 「デルス・ウザーラの言語をめぐって」『*Altai Hakpo* (アルタイ学報)』13: 61-76, ソウル: 韓国アルタイ学会, 2003 年 6 月.
- 105 f 「北のこことばと向き合う」『北海道大学文学部案内 2004』: 35. 北海道大学文学部, 2003 年 7 月.
- 106 d 「〈書評〉 呉人恵著『危機言語を救え! ツンドラで滅びゆく言語と向き合う』」『月刊言語』32/9: 116. 東京: 大修館書店, 2003 年 8 月.
- 107 a 「書きことばの創生: 少数民族が文字をもつとき」『国文学』48/12 (2003 年 10 月号) : 10-14. 東京: 学燈社, 2003 年 9 月.
- 108 f 「消滅の危機に瀕しているツングース語: 少数言語にも優れた表現力と複雑さがあります」(スペシャルトーク第 228 回)『リアルティタイム』2003/10 (No.262) : 2-3, アットホーム株式会社, 東京, 2003 年 9 月 20 日. [インタビュー記事]  
<[http://www.athome-academy.jp/archive/literature\\_language/0000000195\\_all.html](http://www.athome-academy.jp/archive/literature_language/0000000195_all.html)>
- 109 e 『北のこことばフィールド・ノート: 18 の言語と文化』[津曲編著, 「はじめに: 北のこことばを訪ねて」1-5] v+266pp. 札幌: 北海道大学図書刊行会, 2003 年 10 月.
- 110 f 「デルスの見た星: ウイルタ〜ナーナイ〜ウデヘ」[109 所収: 37-48] .
- 111 a 「ツングース語と上代日本語の文法上の類似点」アレキサンダー・ボビン/長田俊樹共編『日本語系統論の現在』(日文研叢書 31) : 237-247. 京都: 国際日本文化研究センター, 2003 年 12 月. <<http://id.nii.ac.jp/1368/00005281/>>
- 112 b Two Udehe folktale texts with grammatical analysis. *The Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* 61: 43-73. Tokyo: Toyo Bunko, 2003.

#### 2004 (平成 16) 年

- 113 f 「ビキンのほとりエコツアー」『北海道立北方民族博物館友の会ニュース』50: 1. 網走: 北方文化振興協会, 2004 年 1 月.
- 114 e 『ウデへの二つの昔話: タルメニとセレメニ, チョウセンニンジン掘りの若者』[A. カンチュガ著/津曲編訳, 「編者あとがき」40] ii+40pp. 札幌: かりん舎, 2004 年 3 月. [別途 CD 版あり, ロシア向けに *Dve udegejskie skazki* としても刊行 (ツングース言語文化論集 26, 北海道大学大学院文学研究科, 2004 年 3 月)]
- 115 e 『環北太平洋の言語』11 [津曲編] iv+232pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2004 年 3 月.
- 116 b NGO as a link between linguist and community. In: O. Miyaoka and F. Endo (eds.)

*Languages of the North Pacific Rim* 9 (ELPR: A2-043) : 79-82. 大阪学院大学情報学部, 2004年3月. TF

- 117 f 「デルス・ウザーラはどんなことばを話したか？」『今、世界のことばが危ない！ グローバル化と少数者の言語』（第19回「大学と科学」公開シンポジウム予稿集）：22-23. 名古屋：〈今、世界のことばが危ない！〉事務局, 2004年11月.

### 2005（平成17）年

- 118 e 『サハリンのウイルタ』[タチヤーナ・ローン著／永山ゆかり・木村美希訳／津曲敏郎・加藤博文監訳, 津曲「監訳者序」iii-iv]. viii+185pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2005年3月.
- 119 e 『環北太平洋の言語』12 [津曲編] iv+206pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2005年3月.
- 120 f 「〈巻頭言〉デルスの還る森」『北方博物館交流』17: 1. 札幌：北海道北方博物館交流協会, 2005年3月.
- 121 f 「海と大河が結ぶ大陸の交流物語」『司馬遼太郎 街道をゆく 33：オホーツク街道』（朝日ビジュアルシリーズ）：18-19. 東京：朝日新聞社, 2005年8月.
- 122 e *Bagdise Xokto Telunguni 2: Naonzaka ekini (Avtobiograficheskaja Povest' 2: Junost'; dlja chtenija po udegejskamu jazyku)* [A. カンチュガ著／津曲編『ウデヘ語自伝テキスト2：青年時代』ウデヘ語・ロシア語版]（ツングース言語文化論集28）vi+185pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2005年8月.
- 123 f 「北への想い」『飛ぶ教室』3（2005秋）：104-105. 東京：光村図書出版, 2005年10月.

### 2006（平成18）年

- 124 f 「デルス・ウザーラはどんなことばを話したか？」『今、世界のことばが危ない！ グローバル化と少数者の言語』（第19回「大学と科学」公開シンポジウム講演収録集）：56-64, 討議発言96. 東京：クバプロ, 2006年2月.
- 125 e *Bagdise Xokto Telunguni 3: Studente bisimi ekini (Avtobiograficheskaja Povest' 3: Studencheskie gody; dlja chtenija po udegejskamu jazyku)* [A. カンチュガ著／津曲編『ウデヘ語自伝テキスト3：学生時代』ウデヘ語・ロシア語版]（ツングース言語文化論集29）vi+231pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2006年2月.
- 126 e 『環北太平洋の言語』13 [津曲編] iv+181pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2006年3月.
- 127 a 「満洲語格標識の形態論的位置づけ：語か接辞か？」[126所収: 127-137 / 133再録: 116-126].
- 128 f 「第2号刊行に寄せて」『北海道民族学』2: 1. 北海道民族学会, 2006年3月. DM
- 129 b 「言語と伝統文化の保持に向けて：沿海州ウデへの事例」『北海道民族学』2: 89-90. 北海道民族学会, 2006年3月. DM
- 130 f 「あべ弘士氏講演会」『北海道民族学』2: 93-94. 北海道民族学会, 2006年3月. DM
- 131 b 「話者による危機言語の記録とその活用：ウデヘ語絵本作りをとおして」北海道立北方

- 民族博物館編『環北太平洋の環境と文化』：134-143. 札幌：北海道大学出版会，2006年3月.
- 132 b 「ウデへの記した生活史：中国との関係を例に」『満族史研究会第20回大会報告書』：49-56. 函館：[発行機関記載なし]，2006年.
- 133 e 『北方諸言語の類型的比較研究』（平成15年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書）[津曲編，「はしがき」ほか1-15] ii+132pp. 北海道大学大学院文学研究科，2006年5月.
- 134 a Morphological status of the Manchu case markers: particle or suffix? In: A. Pozzi, J. Janhunen and M. Weiers (eds.) *Manchu Studies in Honour of Giovanni Stary* (Tunguso Sibirica 20): 225-233. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2006.
- 135 f 「無文字言語のゆくえ：北方少数民族言語はどう生き残れるか？」『社会言語科学会第18回大会発表論文集』：241-242. 社会言語科学会，2006年8月. [招待講演要旨]
- 136 c 『ウデへ語の手引：こんにちは！ウデへ語で話しましょう！』28pp. 私家版，2006年8月（2014第3刷）. HU
- 137 e *Bagdise Xokto Telunguni 4: Faja* (Avtobiograficheskaia Povest' 4: Faja; dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著／津曲編『ウデへ語自伝テキスト4：妻ファヤの思い出』ウデへ語・ロシア語版]（ツングース言語文化論集33）vi+258pp. 北海道大学大学院文学研究科，2006年9月.
- 138 d 「〈書評〉池上二良著『北方言語叢考』」『満族史研究』5: 165-169. 東洋文庫清代史研究室満族史研究会，2006年9月.
- 139 a 「日本語とツングース語」吉田金彦編『日本語の語源を学ぶ人のために』：170-175. 東京：世界思想社，2006年12月.
- 140 f 「文学研究科平成18年度特色ある研究教育プロジェクト「北方研究の構築と展開」」『文学研究科・文学部ニュース』50: 31-33. 北海道大学大学院文学研究科，2006年12月. <[http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku\\_news/news50.pdf](http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku_news/news50.pdf)>

## 2007（平成19）年

- 141 c 「満州語」飛田良文他編『日本語学研究事典』：70-71. 東京：明治書院，2007年1月.
- 142 a 「デルス・ウザーラの言語に見るアイデンティティ」煎本孝・山田孝子編『北の民の人類学：強国に生きる民族性と帰属性』：209-228. 京都大学学術出版会，2007年1月.
- 143 e *Bagdise Xokto Telunguni 5: Waksau telunguni* (Avtobiograficheskaia Povest' 5: Oxotnich'i rassказы; dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著：津曲編『ウデへ語自伝テキスト5：狩猟物語』ウデへ語・ロシア語版]（ツングース言語文化論集34）iv+185pp. 北海道大学大学院文学研究科，2007年3月.
- 144 e 『環北太平洋の言語』14 [津曲編] iv+247pp. 北海道大学大学院文学研究科，2007年3月.
- 145 a 「無文字言語のゆくえ：北方少数民族言語はどう生き残れるか？」[144所収：159-166, 第18回社会言語科学会大会（2006年8月26日北星学園大学）での招待講演を補訂].
- 146 f 「北方研究の構築と展開：文学研究科公開シンポジウム概要報告」〈北方研究の構築と展開〉プロジェクト編『北大文学研究科公開シンポジウム：北方的—北方研究の構築

- と展開』: 114-117. 北海道大学大学院文学研究科, 2007年3月.
- 147 a 「ウデヘ語における中国語借用の一側面: チョウセンニンジン関係語彙を中心に」『北海道民族学』3: 37-45. 北海道民族学会, 2007年3月. DM
- 148 f 「カザフスタンから帰国して: 三浦正雄氏講演会」『北海道民族学』3: 90-92, 北海道民族学会, 2007年3月. DM
- 149 f The establishment and expansion of northern studies: Graduate School of Letters open symposium report. *Journal of the Graduate School of Letters* 2: 59-64. 2007年3月. HU
- 150 a Siberia: Tungusic and Palaeosiberian [呉人恵・遠藤史と共著, Introduction および Tungusic の節 (387-392) を担当] . In: O. Miyaoka, O. Sakiyama and M. E. Krauss (eds.) *The Vanishing Languages of the Pacific Rim*: 387-405. Oxford: Oxford University Press, 2007.
- 151 b 「環北太平洋ことばの旅」『第22回特別展 環北太平洋の文化Ⅱ 世界で一番ダイナミックな海 ベーリング海に生きる人びと』: 15-18. 網走: 北海道立北方民族博物館, 2007年7月.
- 152 e *Skazanija i legendy naroda ujl'ta*. [『ウイルタ口頭文芸原文集: ロシア語逐語訳版』池上二良著/E.A. ビビコワ訳/津曲編, 「編集者序」露文 iv-v, 和文 vi] (ツングース言語文化論集 38) vi+114pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2007年8月. HU
- 153 f 「「北方研究教育センター」の設立」『文学研究科・文学部ニュース』51: 41-42. 北海道大学大学院文学研究科, 2007年12月.  
<[http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku\\_news/news51.pdf](http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku_news/news51.pdf)>

### 2008 (平成 20) 年

- 154 f 「創刊にあたって」『北方人文研究』1: iii. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2008年3月. HU
- 155 f 「ロシア沿海州ウデヘ族の過去と現在: A. カンチュガ氏講演会」『北海道民族学』4: 95-96. 北海道民族学会, 2008年3月. DM
- 156 f 「退職教員へ贈る言葉: 門脇誠一さん一言語学研究室のこと」『楡文 北海道大学文学部同窓会会報』9: 5-6. 北海道大学文学部同窓会, 2008年4月.
- 157 e 『サハリンの言語世界: 北大文学研究科公開シンポジウム予稿集』[津曲編] iv+62pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2008年9月.
- 158 f 「サハリンの言語世界: 単語借用から見る」[シンポジウム発表資料, 157所収: 1-6].
- 159 f 「「北方研究教育センター」平成20年度活動報告」『文学研究科・文学部ニュース』52: 32-34. 北海道大学大学院文学研究科, 2008年12月.  
<[http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku\\_news/news52.pdf](http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku_news/news52.pdf)>

### 2009 (平成 21) 年

- 160 f 「民族自身による言語の記録と研究」『知里真志保 人と学問: 生誕百周年記念シンポジウム予稿集』: 1-8. 北海道大学文学研究科北方研究教育センター, 2009年2月. [シ

ンポジウム発表資料] HU

- 161 e 『サハリンの言語世界：北大文学研究科公開シンポジウム報告書』[津曲編, 「はじめに」 i-ii] ix+156pp. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2009年3月. HU
- 162 a 「サハリンの言語世界：単語借用から見る」[161 所収: 1-10] . HU
- 163 a Grammatical outline of Uilta (revised). *Journal of the Graduate School of Letters* 4: 1-21. 北海道大学大学院文学研究科, 2009年3月. HU
- 164 a A sketch of Solon grammar. 『北方人文研究』2: 1-21. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2009年3月. [『中国関係論説資料』51 (論説資料保存会) に再録] HU
- 165 f 「言語こそ貴重な文化遺産：北方少数民族の言語を訪ねて」『リテラポプリ』37: 6-7. 北海道大学, 2009年7月. [インタビュー記事]  
<<http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/litterae.html>>
- 166 d 「〈書評・紹介〉呉人恵著『コリヤーク言語民族誌』『月刊言語』38/8: 104. 東京：大修館書店, 2009年8月.
- 167 f 「「北方研究教育センター」平成21年度活動報告」『文学研究科・文学部ニュース』53: 21-22. 北海道大学大学院文学研究科, 2009年12月.  
<[http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku\\_news/news53.pdf](http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku_news/news53.pdf)>
- 168 e *Nitsa printse: Malen'kij prints na udegejskom jazyke*. [A. カンチュガ訳/津曲編『星の王子さま』ウデヘ語・ロシア語対訳版] (ツングース言語文化論集 46) ii+180pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2009年12月. HU

## 2010 (平成 22) 年

- 169 a 「アイヌの北の隣人たち：ウイルトとニブフ」『国文学 解釈と鑑賞』75/1 (平成 22 年 1 月号) : 78-83. 東京：至文堂/ぎょうせい, 2010 年 1 月.
- 170 e 『ウデヘ語自伝テキスト 2：青年時代』[A. カンチュガ著：津曲編訳, 日本語対訳版] (ツングース言語文化論集 50) vi+172pp.+ 音声 CD1 枚付き, 北海道大学大学院文学研究科, 2010 年 3 月. HU
- 171 a Long journey of walrus: a linguistic survey. 『北方人文研究』3: 45-57. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2010 年 3 月. HU
- 172 a 「ウデヘ語音韻論覚え書き：地域類型的観点から」北海道大学大学院文学研究科言語情報学講座編『言語研究の諸相：研究の最前線』: 103-112. 札幌：北海道大学出版会, 2010 年 3 月.
- 173 a 「民族自身による言語記録の重要性」北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター編『知里真志保：人と学問』: 3-22. 札幌：北海道大学出版会, 2010 年 3 月.
- 174 a 「北方の言語を旅する：失われゆくことばの多様性」北村清彦編『北方を旅する：人文学でめぐる九日間』: 119-141. 札幌：北海道大学出版会, 2010 年 3 月.
- 175 b 「少数民族言語の研究と復興」北海道大学アイヌ・先住民研究センター編『アイヌ研究の現在と未来』: 307-320. 札幌：北海道大学出版会, 2010 年 3 月.
- 176 f 「トナカイ遊牧民コリヤークのエコロジー：ツンドラの人々は何も捨てないのか? 呉

- 人恵氏講演会」『北海道民族学』6: 117-118. 北海道民族学会, 2010年3月. DM
- 177 b 「ウイльта語文例」呉人恵編『環北太平洋の言語』15: 159-177. 富山大学人文学部, 2010年3月.
- 178 f 「少数民族言語によるライフ・ヒストリーの記録: コメントに代えて」『日本オーラル・ヒストリー研究』6: 29-37. 日本オーラル・ヒストリー学会, 2010年9月. [同学会第7回大会(2009年9月12日北星学園大学)シンポジウム「アイヌのオーラル・トラディション」でのコメント]
- 179 e *Bagdise Xokto Telunguni 6: Ilou Moxede* (Avtobiograficheseskaja Povest' 6: Ilou i Moxe, nashi daljokie predki; dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著: 津曲編『ウデヘ語自伝テキスト6: 扨婁と靺鞨 ウデヘの祖先』ウデヘ語・ロシア語版] (ツングース言語文化論集51) iv+145pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2010年12月.
- 180 a 「セイウチの来た道」菊池俊彦編『北東アジアの歴史と文化』: 537-552. 札幌: 北海道大学出版会, 2010年12月.
- 181 f 「「北方研究教育センター」平成22年度活動報告」『文学研究科・文学部ニュース』54: 27-29. 北海道大学大学院文学研究科, 2010年12月.  
<[http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku\\_news/news54.pdf](http://www.let.hokudai.ac.jp/archive/bungaku_news/news54.pdf)>

### 2011(平成23)年

- 182 e 『北方言語研究』1 [北方言語ネットワーク編: 津曲編集代表, 「『北方言語研究』創刊に寄せて」i-iv] iv+228pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2011年3月. HU
- 183 b *An Udihe folktale text: Solomo and Tausima*. 『北方人文研究』4: 75-93. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2011年3月. HU
- 184 d 「〈書評・紹介〉呉人恵著『コリヤーク言語民族誌』」『北海道民族学』7: 60-62. 北海道民族学会, 2011年3月. DM
- 185 f 「ツングースの唄と語り」北の文化シンポジウム実行委員会編『環オホーツク』18(第18回北の文化シンポジウム環オホーツク海文化のつどい報告書2010): 13-24. 紋別: 北の文化シンポジウム実行委員会, 2011年3月.
- 186 f 「ようこそ、北大総合博物館へ」『北海道大学総合博物館ボランティア・ニュース』21: 2. 北海道大学総合博物館ボランティアの会, 2011年6月.  
<<http://www.museum.hokudai.ac.jp/lifelongeducation/volunteer/volunteernews>>
- 187 f 「〈館長就任挨拶〉モノとコトの博物館」『北海道大学総合博物館ニュース』23: 1. 北海道大学総合博物館, 2011年9月. HU [北海道大学オープンコースウェアで講演ビデオ視聴可 <<http://ocw.hokudai.ac.jp/?lang=ja>>]
- 188 f 「カピタンの死」『*Arctic Circle*: 北海道立北方民族博物館友の会・季刊誌』81: 裏表紙. 網走: 北方文化振興協会, 2011年12月.
- 189 d 「池上二良先生の満洲語学」『満族史研究』10: 103-108. 東洋文庫清代史研究室満族史研究会, 2011年12月.

## 2012 (平成 24) 年

- 190 f 「言語学者が説く博物館展示と「コトバ」の類似性と意義」『U7 学士会会報』42: 10-19. 学士会, 2012 年 2 月. [インタビュー記事]
- 191 f 「池上二良先生と北方言語への思い」『言語研究』141: 81-83. 日本言語学会, 2012 年 3 月.
- 192 f 「言誤学? 未知のコトバとの出会い」松江崇編著『誤解の世界: 楽しみ、学び、防ぐために』: 1-49. 札幌: 北海道大学出版会, 2012 年 3 月.
- 193 b 「満洲語学の展開: 池上先生の残したもの」『北方人文研究』5: 173-178. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2012 年 3 月. HU
- 194 f 「編者まえがき」[津曲整理・編集「池上二良先生「言語学概論」講義」]『北方人文研究』5: 213 (-269). 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2012 年 3 月. HU
- 195 e 『北方言語研究』2 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+216pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2012 年 3 月. HU
- 196 a A note on Udihe phonology from an areal-typological perspective. In: A. L. Malchukov and L. J. Whaley (eds.) *Recent Advances in Tungusic Linguistics* (Turcologica 89): 79-86. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2012.
- 197 f In memory of Prof. Jiro Ikegami (1920-2011) with a selected bibliography. 『*Altai Hakpo* (アルタイ学報)』22: 223-228. ソウル: 韓国アルタイ学会, 2012 年 6 月.
- 198 f 「〈巻頭言〉言葉が世界を発見する」『北海道大学総合博物館ニュース』26: 1. 北海道大学総合博物館, 2012 年 12 月. HU

## 2013 (平成 25) 年

- 199 e *Bagdise Xokto Telunguni 7: Boaxe; Tso bongo golo minti nilefi* (Avtobiograficheskaja Povest' 7: Boxaj; Samoe pervoe gosudarstvo nashix narodov: dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著: 津曲編『ウデヘ語自伝テキスト7: 渤海 ツングースの最初の国家』ウデヘ語・ロシア語版] (ツングース言語文化論集 55) iv+174pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2013 年 2 月.
- 200 a 「B. ピウスツキのウイльта語民話資料について」沢田和彦編『ポーランドの民族学者ブロニスワフ・ピウスツキの生涯と業績の再検討』(埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書 5): 97-112. 埼玉大学教養学部・文化科学研究科, 2013 年 3 月.
- 201 e 『北方言語研究』3 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+212pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2013 年 3 月. HU
- 202 f 「あべ弘士氏講演会」『北海道民族学』9: 115-116. 北海道民族学会, 2013 年 3 月. DM
- 203 f 「キミもマイスターをめざそう!」『北海道大学総合博物館ミュージアムマイスター認定コースのご案内』: 1. 北海道大学総合博物館, 2013 年 3 月. [同 2014 年度版にも再録] HU
- 204 f 「文系の心と理系の目」『北海道大学文学部案内 2014』: 21. 北海道大学文学部, 2013 年 6 月.
- 205 f 「古代ワニは私たちに何を語るか?」小林快次『ワニと恐竜の共存: 巨大ワニと恐竜の



世界』: 1. 北海道大学総合博物館, 2013年7月.

### 2014 (平成 26) 年

- 206 e 『北方言語研究』4 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+231pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2014年3月. HU
- 207 b 「ピウスツキ採集のウイльта語民話テキスト「ネズミの母親とカエルの母親」」[206所収: 213-231]. HU
- 208 e 『ウイльта長編英雄物語ニグマー: シーグーニ物語テキスト』[佐藤チヨ演唱/池上二郎採録・解説/山田祥子編訳/E. ビビコワ露訳/津曲敏郎監修・序, 「監修者序」和文1-2, 露文14-16] vi+259pp.+ 音声 CD1枚付き. 北海道大学大学院文学研究科, 2014年3月. HU
- 209 e 『増補改訳 ビキン川のほとりで: 沿海州ウデへ人の少年時代』[アレクサンドル・カンチュガ著/津曲訳, 「はじめに: ビキン川のほとりの出会い」i-iv, 「訳者解説: 史実と記憶のはざま」329-336] xii+336pp. 札幌: 北海道大学出版会, 2014年3月. [083の増補改訳]
- 210 a Remarks on the Uilta folktale text collected by B. Pilsudski. 『北方人文研究』7: 83-94. 北海道大学大学院文学研究科北方研究教育センター, 2014年3月. HU
- 211 a 「コトノハ考」『北海道民族学』10: 96-103. 北海道民族学会, 2014年3月. DM
- 212 a The Japanese word for 'word/language': with reference to Altaic equivalents. 『*Altai Hakpo* (アルタイ学報)』24: 163-171. ソウル: 韓国アルタイ学会, 2014年6月.
- 213 f 「〈巻頭言〉響く雷鳴、握る舵輪…おしよる丸の航跡」藤田良治・湯浅万紀子編著『学船: 北海道大学 洋上のキャンパスおしよる丸』: 2. 札幌: 中西出版, 2014年7月.
- 214 f 「少数言語をアーカイブする」『北海道大学サステナビリティ・ウィーク 2014 学術成果のオープンアクセスと HUSCAP: 未来をつくる知の共有 (Open Access and HUSCAP)』. 北海道大学附属図書館 本館 正面玄関ホール (展示), 2014年10月20日. [インタビュー記事] HU
- 215 c 「ウイльта語」「エヴェンキ語」『日本語大事典』上: 138-139, 183-184. 東京: 朝倉書店, 2014年11月.
- 216 f 「北大総合博物館のアイنشユタインドームと陶製レリーフ」(アート万華鏡: 美は細部に宿る②)『北海道新聞』2014年11月17日朝刊.

### 2015 (平成 27) 年

- 217 e 『北方言語研究』5 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+317pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2015年3月. HU
- 218 e *Bagdise Xokto Telunguni 8-1: Tsaixi bagdii jungdaini (1) (Avtobiograficheskaja Povest' 8-1: Zhizn' prodolzhaetsja: dlja chtenija po udegejskamu jazyku)* [A. カンチュガ著/津曲編『ウデへ語自伝テキスト8: 人生は続く(1)』ウデへ語・ロシア語版] (ツングース言語文化論集 59) iv+132pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2015年3月.
- 219 b 「少数民族言語で語る場の創出—サハリン「原語」学会の試み」『北海道民族学』11:

- 84-92. 北海道民族学会, 2015 年 3 月. DM
- 220 f 「定年退職を迎えるにあたって」『北大時報』732 (平成 27 年 3 月号): 26. 2015 年 3 月. <<http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>>
- 221 f 「北方民族の世界: 常設展開設に向けて」『北海道大学総合博物館ニュース』31: 2-3. 北海道大学総合博物館, 2015 年 6 月. HU

### 2016 (平成 28) 年

- 222 e *Nuchiike prinsi: Malen'kij prints na uil'tinskom jazyke*. [E. ビビコワ訳/山田祥子編/津曲監修・序『星の王子さま』ウイルト語・ロシア語対訳版, 「監修者序」露文 i-ii, 和文 iii-iv] (ツングース言語文化論集 61) iv+189pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2016 年 1 月. HU
- 223 e 『北方言語研究』6 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+201pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2016 年 1 月. HU
- 224 b 「文法調査票に基づくウデヘ語例文」[223 所収: 153-178]. HU
- 225 d 「〈書評・紹介〉佐々木史郎著『シベリアで生命の暖かさを感じる』」『北海道民族学』12: 73-74. 北海道民族学会, 2016 年 3 月. DM
- 226 a 「ツングース語から見た満洲語文法」『満洲語文法の研究と教育 (韓国文)』[第 6 回満洲学センター国際学術会議 (2016 年 6 月 3 日 韓国高麗大学校) 予稿集]: 和文 67-75, 韓国文 (白尚燁訳) 77-85. ソウル: 高麗大学校民族文化研究院満洲学センター, 2016 年 6 月.
- 227 f 「Let's しゃみチェン! ポプラでつながる和洋の楽器」『北海道大学総合博物館ニュース』33: 14. 北海道大学総合博物館, 2016 年 6 月. HU
- 228 e *Bagdise Xokto Telunguni 8-2: Tsaixi bagdii jungdaini (2)* (Avtobiograficheskaja Povest' 8-2: Zhizn' prodolzhaetsja: dlja chtenija po udegejskamu jazyku) [A. カンチュガ著/津曲編『ウデヘ語自伝テキスト 8: 人生は続く (2)』ウデヘ語・ロシア語版] (ツングース言語文化論集 63) iv+151pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2016 年 9 月.

### 2017 (平成 29) 年

- 229 e 『北方言語研究』7 [北方言語ネットワーク編: 呉人恵・津曲共編] iv+129pp. 北海道大学大学院文学研究科, 2017 年 2 月. HU